***モニター通信 №６***

**皆さんから寄せられた「モニター通信２月分」を紹介します。**

**「土浦市の消費生活モニターに参加して思ったこと」**

**～市の消費者行政やセミナー・消費生活展などに参加して感じたことをお書きください～**

モニターから　No.1

　あっという間の一年間だったと思います。入院や膝の故障やリハビリもあり本当に大変で考えさせられることも多い年でした。忙しくても社会や世間のことを考えるのは自分にとってもよかったです。年々様々な物が急に高くなり、少しでも食材を無駄なく利用すべく努めています。せっかく地方に住んでいるのだから今年はたべられるものもつくってみようかなどと考えている今日この頃です。
　今後、環境や価値観もガラリとかわってくるでしょう。歳を取ってくる自分が何をすることができてどのような形で社会に貢献していけるのかを考えていくことが今後の自分の課題だと思っています。地産地消は今後のキーワードになるでしょう。
　一年間、お世話になりました。ありがとうございました。

モニターから　No.2

　消費生活モニターは、市民の消費生活に関する問題を行政に伝えるとともに研修研鑽を重ね、賢い消費者として自立することと定義されています。モニター活動については、消費者の立場から諸問題について意見の提出と市消費生活センターの活動に協力し、より良い消費者を目指すことです。この目的をかざしてモニター活動を続けていますが、ここ数年のコロナ禍によりセンター主催の勉強会も開催されず、私たちモニターは年６回のテーマ報告に取り組むのみでした。勉強が足りなく毎日のＴＶ・新聞から得られる知識のみでした。来年はよろしくお願いします。

来年のモニター活動については、次により私たちの勉強会の開催を出発点としたいです。勉強会の開催は自宅で行うのを加えました。

1. 年４回程度のネットによる講習会の開催。
2. 年２回程度のセンターでの研修会の開催。
3. 年２回の土浦市内消費者への宣伝活動の実施。

以上ですが、①はまだまだコロナによる伝染病の影響の多い今日、私たちの活動がままならない事が想定されますので、センター(先生)からのｗｅｂ授業を取り入れたいです。

モニターから　No.3

　暮らしのセミナーに参加して感じたことは、確実に時代が進み、動いて変化しているという実感を思うが、地球規模の環境が悪くなっているということに驚いている。私たちは平和で豊かな生活を望み、そのためにさまざまに学び、働いてきたはずが、日本ではかなり成功してきたと思うが、地球全体を見ると貧富の差、民族同士の戦争、気候の問題、虐待、いじめ等、解決が難しい事柄がなかなか減らない。これからの世界をどの方向に向けていくか、人々の意識を目標をどう向けるか暮らしのセミナーの在り方をもっと身近なこととして考えたい。

　一人一人が、もっと幸せに感じて生きていくにはどうしたらよいだろうか。物が豊かな日本は外国から輸入したり、また輸出をして経済がまわっているが、ものを無駄にしたり、粗末にしていないか、よく自覚しないといけないと思う。開発途上国の国々をかなり犠牲にしているはずである。

　地球の温度が、暑すぎたり、寒くなれば、農業などは作物がうまく育たなくなったり、魚や動物もとれなくなるだろう。自然がうまく人間の生活を支えられなくなれば危機である。こういったことまで考えなければ、これからの消費生活はバランスがとれなくなると思う。

モニターから　No.4

　消費生活センタースタッフの皆様、１年間御苦労様でした。そして、いろいろお世話になりました。セミナーの減少はあるものの、水郷体育館での消費生活展や社会科見学等、例年のイベント等でいろいろ学ばせていただきました。近年は、物価高のあおりで消費者の生活はより苦しくなるばかりですが、新型コロナもおさまりつつあり、日々の生活・経済等について冷静に考える余裕もできました。

消費生活センターの傾向として、セミナーの開催がぐっと減り私達が身近に学ぶ機会が、それに伴い減少しました。これからは従来の消費生活展や施設見学に加えて、さまざまな問題を取り上げたセミナー等の開催を望んでいます。今後はセンターの企画力ややる気・意気込み等が問われることになります。従来の企画だけに満足せず、さらなる向上を目指していただけることを期待しています。

私達も情報をキャッチし続け、進化していければと思っています。

モニターから　No.5

　消費生活モニターの携わるようになって、各モニターのレポートをまとめた物が小冊子になって年６回送付されるのが楽しみだ。モニターになられた方々のレポートからそれぞれのご家庭の家計に関する考え方で、くらしぶりがしのばれるのが実に面白い。ただモニターに参加される方々の思考や行動が、私を含め割合似ているので、後半になるとつまらなくなってくる。皆様のくらしの叫びが、多かれ少なかれ聞こえてくる。だが、まとめられたレポートを読んでいるだけでは、隣の奥様と井戸端会議をしているだけでしかない。我々の叫びがどこに反映されているのか疑問にも思っている。それはレポートを提出する人の年齢もだいたい同じような年代の人だという事に起因していると思っている。

　世の中の情報はネットで取る事は簡単だが、一つの提起された問題に頭をめぐらす事をあまりしない今、レポートを提出する事で考えをめぐらす事が出来る事に感謝している。しかし、同年代の思考では堂々巡りをしている感は否めない。世の中の動きも若い人々の考え方も知る事、感じる事で新しく水路が導かれるのではと思っている。それはもっと消費者教育を若い人々に向けて行ってほしいと思っている。

　ただ、お互いに違う場所で意見を唱えても、すり合いをしなければまとめられないし、意味がないと思っている。我々世代と、まさに今を生きている若い人達と違っていて当たり前。考え方も質問をしあう中でそれぞれが深くなっていくのだろう。

　きっと出前授業等々で高校や大学に出向いていると思うが、その情報や若い人の考え方は我々に伝わってこないのが残念でならない。

モニターから　No.6

　今年度、初めて消費生活モニターに応募しました。広報誌を見て、何をするのかも分からずに応募しました。モニター通信設定テーマがあることで、テーマについて考える時間を確保し、自分の意見を言語化する作業が面白くもありました。後日届くモニター通信により、他の人はどう考えているのかを知ることができ、大変勉強になりました。消費生活展のお手伝いに参加することができたので、そこで他の方と話せたことは大きな収穫でした。

ただ、最初の研修は仕事で参加できず残念でした。消費生活センターは何をしているところなのか？見学したかったです。他にも、国民生活センターから、このような注意喚起がありますなどの情報をもっともらいたかったです。きっとコロナ禍以前は活発に活動されていたと思いますので、少しずつ再開されることを願っています。

一年間お世話になりました。

モニターから　No.7

　毎日目まぐるしく変化が早い昨今の様々な状況を鑑みるに付け、漫然とした旧態依然の対応では、とても太刀打ち出来ないと思います。特に日々の消費生活に於いては世界中の紛争等で穀物の価格上昇や先行き不透明の状況を目の当たりにし、本当に心配が増している所です。日本国内ではただ安閑としていても、様々なところに歪を及ぼしている事は間違いない事実だと思います。

　それらを頭に消費生活センターのモニターとしてどう対応を取るべきか、自分なりに考え精進した結果、小さな事象であっても、その裏に何か隠されているのかを見極める鋭い洞察力が必要と考えました。それにヒントを与えて下さるのがモニターであると確信しました。モニターでの自覚と責任感によりそれが醸成される物だと思います。今後も微力ですが、機会が有れば参画し、自己研鑽に努めて参りたいと思います。

モニターから　No.8

　約10年ぶりに2度目のモニターに参加させていただきました。年齢が増したせいか、テーマの捕らえ方の感覚が違うことに自分自身驚いています。こんなに身近に生活に密着し、生活から切り離す事ができない問題をテ―マに、目を向けるよう、意識を持たせて頂いたことに感謝しています。穏やかに流れていく毎日が当たり前になっていて、健康や平和な日々に疑問も持たず過ごしていました。折角、今回意識改革のチャンスをいただきました。テーマにも有りましたように、人生100年、まさしく消費生活を充実させながらできるだけ意識を高めて行ければと思っています。

それから、こんな活動をされている消費生活センターさんを市民の皆さんにもっともっと、知って頂くよう広報活動もさらによろしくお願い致します。有難うございました。

モニターから　No.9

１０月に実施された「環境・消費生活展」にお手伝いとして参加したので、その感想を書きたい。参加した各団体はそれぞれ工夫を凝らし、来場者が興味を持って参加できるよう準備されていたように思う。昼食のお弁当の空き箱を、食べ残し、プラスチック類、燃えるゴミ、と分別して集めていて、さすが「環境展」だなと感心した。市主催の各種の会合やイベントでも、是非このように、ゴミを分別しリサイクルを率先して進めて欲しいと思った。

入り口付近に霞ヶ浦水族館の動物のコーナーがあり、蛇など爬虫類が持ち込まれていた。子どもたちは近寄って触ったりしていたが、大人は気味悪がって遠巻きに見ている人が多かった。身近にいる動物に関心をもってもらうためかも知れないが、好き嫌いもあるが、来年は再考して欲しいと思った。土浦市の環境対策として取り組んでいることは、市報やホームページでも見られるのだろうが、あの場に展示したり体験できるようにしたりして、もっとアピールしても良かったように思う。
　１年間消費生活モニターとして活動することで、与えられた課題について、積極的に情報を収集したり、友人との話題に出したりしてきた。後から届くモニター通信を読むと、他の方が取り組んでいることや考えが分かり、なかなか同じ様にはできないが、とてもためになった。　　　　　　　　　　　　年度初めのモニター研修では、身近で、次々と手口が変わる詐欺について学習でき、気をつけなければと身が引き締まる思いがした。消費生活センターの皆様、お世話になりました。

モニターから　No.10

　今年度も一年間モニターを務めさせていただきました。毎年、年度末に思うのですが、このモニターを引き受けていなかったら、まず「自分が」消費者としての意識をこれほどにも感じているであろうかということです。毎日を漫然と成り行きに任せて過ごすのでなく、こういうことについてはどう考えますかということを消費生活センターのスタッフから問われて、そのたびにそれを意識して生活する、あるいはそのことについて自分なりに意識はして生活しているが、モニターリポートを書くということが、あらためて考えをまとめるきっかけとなった。

さらには、そのことについて「自分だけでなく」町内の周囲に話をし互いに意見を交わし、気付いていなかった人たちには気付かせるきっかけになっている、そういうこともあるのか、そういうことがあるのかと言われると、消費生活センターのスタッフからのモニターテーマを機会あるごとに周囲で話題にしてよかったと感じた日々でした。

モニターから　No.11

　私は消費生活モニターを長く続けていて、消費生活展のお手伝いにも何回か加わったことがあります。消費生活展を見て感じることは、私達の消費生活というのはただモノやサービスを購入することだけでなく、環境やエネルギーの問題にまでつながっていく重要なものであるということです。

一人一人が世の中に与える影響は小さいかもしれませんが、その数が増えていくと社会現象となったり、世の中を変えることにもつながっていきます。たとえば車の普及によって郊外の大型の商業施設が賑わうのに対して、駅前の駐車場のない商店街は苦戦しています。またネットでの商品の購入がふえたことによって小売や運送業界に大きな影響を与えているという現実も見過ごせません。他にも多くの事例があると思います。

ただ思うことは、私達一人一人は自分達の力の大きさを知ってはいないだろうなということです。霞ヶ浦の水質も一人が気をつけるだけでは良くはなりませんが、多くの人が気をつけることによって改善が望めます。一人一人の消費者としての行動が社会や環境を変えていくことにつながっている、それを教えてくれるのが消費生活展であると思っています。